

2023年3月6日

一般社団法人日本福祉用具供給協会
理事長 小野木 孝二 様

一般社団法人日本車椅子シーティング協会
代表理事 松永 圭司



中古車椅子提供依頼の周知について（お願い）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます

さて、当会では国際支援活動として、NPO法人さくら・車いすプロジェクトを通じて、日本で使用されなくなった中古車椅子を整備技術指導と共にアジア各国へ提供を行う事業へ協力を行って参りました。

現在、同プロジェクトを含む国内NPO4団体が協働で、戦時下のウクライナへ中古車椅子を支援する取り組みを行っており、車椅子供給事業者等へ中古車椅子の提供を呼びかけております。

つきましては、貴会会員事業者様へ別紙依頼文書の周知を賜りたく、ご協力をお願い申し上げます。

敬具

記

（別添資料）

ウクライナへ不要車いすの送付についてのお願い

以上

【お問合せ先】

一般社団法人日本車椅子シーティング協会事務局（担当：林）
〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-15 浜松町三電舎ビル 2F
TEL：03-6435-0365 FAX：03-6435-0366
E-mail：info@j-aws.jp

車椅子供給事業者各位

ウクライナへ不要車いすの送付についてのお願い

ロシアのウクライナへの侵攻から1年を経ても、未だ日々多くの死傷者を出し続け、更に武器供与も具体的に進んでおります。

それらの中、当「さくら車いすプロジェクト」は微力ながらも平和的な協力をしたく、12月末に145台の中古車椅子を広島支所（CIL 神辺）から送付し、また海外支援をしている団体に声をかけALL JAPANで2月初旬に東京から150台程を発送しました。

それらに続き、車椅子供給事業者の皆さまの協力を頂きたくご案内申し上げます。

当さくら車いすプロジェクトは、様々な団体からの支援を頂き推進しております。

これまで日本で不要になった車いすや電動車いすを、パキスタン（電動車いす20回のコンテナで約1300台）、モンゴル（手動車いすを2回のコンテナで約260台）、ネパール（約120台）へ送ってきました。

その特徴としては、車椅子だけでなくシーティングや修理技術をセットで提供している事です。（現在コロナで3年渡航は停止中）近年では同じように海外への車いす支援をしている団体とALL JAPANの協働で贈るようになってきました。

このウクライナの話は昨年10月の末、「さくら車いす・・・」の活動を知ったロンドン在中の国際ジャーナリストの木村正人さんから連絡を頂きました。

ウクライナでは毎日のように攻撃があり負傷者が増え続けています。

そこで支援活動をしているFFU（Future for Ukraine Foundation）が、「日本から緊急人道支援として500台程、中古車いすを提供してもらえないか」、との要請があったそうです。

ウクライナは、日本のように車椅子の支給制度が無い事もあり、車いすはとても高価なもので戦争以前から圧倒的に不足している貴重品だそうです。

そこで「さくら」の一員である広島のCIL 神辺さんから12月末にフィート20コンテナで145台の手動車いすを発送し、多くのマスコミ取材も受けました。

また様々な支援団体（飛んでけ車いすの会・海外に子供用車いすを送る会・希望の車いす）に声を掛けALL JAPANの協働で、2月初め東京から発送し、それもニュース等で放映されました。

それらは海上封鎖等のウクライナには直接送れず、ヨーロッパの反対側のポーランドのグダンスク港に送りそこから1000km程をFFUが陸送し、第一便が無事国境を越え2月24日、ウクライナのキウイに到着したそうです。

この第一便は課題であったコンテナ輸送費は日本郵船さんが、CSR（企業の社会貢献）として無償で担って下さり、そして第二便は三井商船さんが担って下さいました。

今回、車椅子供給事業者様から広く提供をお願いしたく、下記の要項でご協力頂ければ幸い

です。

- ① 各事業所やユーザーの所に不要だが即使用できる（現地で整備が出来ないため）「手動車いす」がありましたら、下記集荷場にご送付ください。
- ② 恐れ入りますがご送付は、段ボール箱、或いはラッピング等（集荷場により）をした形をお願いします。
- ③ また支援の意味合いから送付実費は会員企業さんのご負担にてお願い申し上げます。
- ④ 23年の5月末迄を実験期間とし、その状況を見て以降の検討を行いたいと思います。
- ⑤ 集荷場は東京と広島の2拠点ありますが、送付方法が異なりますのでご注意ください。

【東京】

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北 5-12-3 聖書キリスト教会 5階

NPO 法人希望の車いす 宛

事務局 Tel:03-5934-4004 E-mail:info@k-kurumaisu.org

- ・事前に事務局にメールで台数、写真、持ち込み予定日をご連絡下さい。
- ・活動日である、火曜日と第二、第四土曜日に持込（又は到着するよう）ご送付下さい。

【広島】

〒720-2117 広島県福山市神辺町下竹田 2438-1

さくら車いす広島支所長 桂達也 宛 Tel:080-6303-1582

- ・こちらは即使用できるものであれば、段ボール等に入れなくても構いません。
- ・もし5台以上ご送付下さる場合は下記福山通運の営業所止でご送付下さい。

〒720-2117 広島県福山市神辺町大字下御領 654 岡山福山通運神辺営業所止

さくら車いす広島支所長 桂達也 宛

準備が十分でないため、申し訳なくもスムーズに行かない事や変更も生じるかも知れませんが、この緊急支援を通し、日本がウクライナに対し応援している事を伝えたいと思います。

2023.3.1

NPO 法人さくら・車いすプロジェクト
理事長 齋藤 省
〒130-0004 東京都墨田区本所 4-26-7
TEL・Fax 03-5637-7900
又は：090-3906-8871（齋藤）

ウクライナ侵攻1年 病院で不足の車いす、500台贈ろう

有料記事

笹山大志 2023年2月16日 7時30分



「海外に子ども用車椅子を送る会」に集められた車いす=2023年1月13日午前11時43分、東京都福生市



ロシアのウクライナ侵攻から24日で1年。負傷したウクライナの人たちを支援しようと、現地に車いすを送るプロジェクトが日本で始まった。1年経ってもウクライナのことを忘れていない――。支援者らはそんな思いを車いすに込める。

プロジェクト名は「オールジャパンでウクライナに車いすを届けよう」。海外に車いすを送る活動をする4団体と運輸会社3社が参加。施設などから中古の車いすを集め、第1便として昨年12月に150台を送り出し、今春までに計500台を届ける予定だ。

呼びかけたのは、英国在住のジャーナリスト木村正人さん（62）。昨年6月、ウクライナで取材した際、足を負傷した現地の人たちを病院で目にした。10月、現場の支援団体から病院で車いすが足りないと聞き、日本各地の支援団体に協力を求めた。

NPO法人「海外に子ども用車椅子を送る会」（東京都福生市）の会長森田祐和さん（64）は、これまで支援してきた途上国とウクライナで負傷した子どもたちの姿が重なる。

以前、エチオピアで車いすを使ってくれている男児（12）に会った。寝たきりだったその子は車いすを使って「光を浴びるって気持ちいいね」と笑顔を見せた。車いすがないウクライナの子にも外出の喜びを思い出して欲しい。

ロシアの侵攻から1年経っても、森田さんの周りでは、日常会話の中に支援状況などウクライナのことが話題にのぼる。森田さんは「日本人の関心は今なお高い」と感じる。そんな思いも車いすと一緒に届けたい。

第1便に参加したNPO法人「さくら・車いすプロジェクト」（東京都墨田区）の理事長、斎藤省さん（75）は色んな使い方をして欲しいと願う。「車いすは逃げる時に荷車としても使える。何らかのかたちで有効活用できる」と話す。

第2便は今月6日、森田さんの団体に加え、NPO法人「希望の車いす」（東京都練馬区）と「『飛んでけ！車いす』の会」（札幌市）で計150台を送った。ポーランドの港に到着後、支援団体が陸路でウクライナの病院に輸送する。

第3便で残る200台を送る予定だ。（笹山大志）

産業春秋／車いすでウクライナ支援

ツイート

シェアする 0

LINEで見る

(2022/12/13 05:00)

NPO法人さくら車いすプロジェクト（東京都墨田区）は、車いすの提供を通じて途上国で障がい者の自立を支援してきた。その経験を生かしロシアによる攻撃が続くウクライナに車いすを贈る。

支援の輪は関連団体に広がりつつある。車いすのメーカーや販売店などで構成する日本車椅子シーティング協会（同港区）はプロジェクトを応援する。会員企業に呼びかけ中古の車いすを寄付してもらう。

日本貿易振興機構（ジェトロ）ワルシャワ事務所によると、戦争の長期化でウクライナの車いすは不足している。日本製の車いすは日本郵船の協力により貨物船でポーランドまで運ばれ、現地の団体を介してウクライナにある20—30の医療機関に供給される。

プロジェクト代表で電動車いすメーカーさいとう工房（同墨田区）の斎藤省社長は、関連団体の協力を得て「オールジャパンで日本人の思いがこもったものを贈りたい」と話す。1回の船便で約150台を送り、これを繰り返す計画という。

国際社会はロシアの侵略行為を許してはならない。草の根の人道支援はその普遍的な価値を訴求するメッセージにもなろう。ウクライナに1日も早く平和が訪れることを願うばかりだ。

(2022/12/13 05:00)

ウクライナに「希望の車いす」送ります ロシアの侵攻で不足深刻化 日本のNPO4団体、第1便は2月に到着予定

2023年1月31日 12時00分



車いすを整備するボランティアたち=いずれも24日、東京都練馬区で（坂本亜由理撮影）

日本のNPO4団体が、ロシアが侵攻したウクライナに車いすを届ける支援活動を行っている。現地では戦禍によって負傷者が増え、車いすが不足している。英国在住の日本人が現地との橋渡し役を務め、課題だった輸送費は日本の海運会社などが支援する。まずは500台を届けるのが目標だ。（山中正義）



トラックに運び込まれる整備済み車いす

1月24日、東京都練馬区のNPO「希望の車いす」の工房で、中古の車いすの積み出し作業が行われていた。同NPOが集めた110台はすでに整備を終え、タイヤのホイールなどがきれいに磨かれている。ボランティア約20人が朝から最後の点検などを行い、午後にトラック2台に積み込んだ。

「ウクライナで戦争が始まってから何とかしたかったが、確実に届けられるルートがなかった」。海外に車いすを贈る活動をしている同NPOの谷雅史理事長（73）は送り出しを前に感慨深げに語った。車いすは社会福祉協議会や介護施設、個人などから不用品を譲り受け、悪路でもパンクしないようにチューブレスタイヤのものを中心に選んだ。

支援は、ロンドン在住のジャーナリスト木村正人さん（61）、史子さん（62）夫妻が昨年6月、ウクライナの隣国ポーランドを訪問したことがきっかけ。侵攻後にポーランドに逃れたウクライナ人が立ち上げた医療支援団体「フューチャー・フォー・ウクライナ（FFU）」の関係者から、ウクライナで車いすが不足していると聞いた。

◆侵攻前から不足 「できることあれば手伝いたい」

ウクライナでは車いすは高価なため、侵攻前から足りなかった。さらに侵攻後は、戦禍による負傷者や、医療の逼迫^{ひっかく}で病状が悪化する患者が増え、不足はさらに深刻化した。史さんは「ウクライナの人たちは必死にがんばっている。できることがあれば、手伝いたいと思った」と振り返る。

FFUが現地で日本からの車いすの受け入れ態勢を整える一方、木村さんが日本の支援団体などに連絡。「希望の車いす」や「海外に子ども用車椅子を送る会」（東京都福生市）のほか、広島県や札幌市の団体も支援に賛同した。

第1便として、「さくら車いすプロジェクト」広島支所のCIL・かんなべ（広島県福山市）が寄贈した146台が昨年末に発送され、2月中旬ごろにポーランドに着く予定。「希望の車いす」と残る2団体による第2便の計150台は、3月上旬のポーランド到着を見込む。その後、FFUを通じてウクライナ西部の病院などに届けられる予定だ。輸送費は2回とも商船三井や日本郵船などの日本企業が負担した。

史さんは「皆さんの協力でこんなに早く実現できた。どのように使われているか、また現地に見に行きたい」と喜ぶ。谷理事長は「オールジャパンでの活動は心強い。今後も現地の反応を見ながら一緒にやっていきたい」と話す。4団体は寄付を募るなどしてウクライナへの車いす寄贈を続ける方針だ。

【関連記事】アメリカがウクライナに25億ドル規模の追加軍事支援 初供与の装甲車や「戦車キラー」の歩兵戦闘車



110台の車いすをウクライナに送るNPO法人「希望の車いす」の谷雅史理事長

オレナ・ニコライエンコさんから感謝の言葉

フューチャー・フォー・ウクライナ (FFU) ポーランドゼネラルマネジャー、FFU 戦略開発部長



「戦争が始まる前からウクライナでは車いすは高級品で、高価であり、常に不足していました。敵の侵攻と砲撃により移動できない被災者が日に日に増えています。自力で動くことができない人も急増しています。高齢者の中には医療を受けることができず、介護を必要とする人も少なくありません。これがまさにウクライナの人々が車いすを切実に必要としている理由です。このことは私たちの財団に寄せられる問い合わせの手紙からも明らかです」

「このような困難な状況下、ウクライナの人々のことを心配してくださる日本人の皆様には感謝しています。『ウクライナの人々に車いすを』という医療プログラムに参加して下さる日本のパートナーの方々に心から感謝申し上げます。私たちはこのプログラムを、戦争で被害を受け、日常生活で使用する車いすを必要とするウクライナの人々を支援するために始めました。私たちは、車いすの素晴らしさを知っています。車いすは人々の日常生活を助けてくれます」

以下は FFU から伝えてきたウクライナの状況です。

キーウ周辺でも空爆の影響で電力事情が悪化しています。発電や送電のインフラが被害を受けました。停電時間が長くなり、昼と夜にそれぞれ 4 時間程度、停電することもあります。政府は病院や社会センターへの電力供給を優先させようとしています。一般市民を取り巻く状況は厳しく、家庭用の薪ストーブで暖をとる家庭もあります。

第一便の一部はチェルノブイリの警戒区域に近いキーウ地域のイヴァンキフスキー地区に送られます。この地域はロシア軍に攻撃され、一時占領されたため、多くの被害を受けました。現在、多くの高齢者が住んでおり、医療を受けることができないため、病状が悪化しています。

イヴァンキフスキー地区のセンターに登録されている車いすを使用する障害者は 76 人で、そのうち 12 人は在宅介護の社会サービスを受けています。独り暮らしの高齢者や介護が必要な障害者です。その中にはナタリア・ラグテンコさんとセルゲイ・グリネンコさんも含まれています。

ナタリアさんは 1985 年生まれ。2006 年に国立農業大学を卒業。6 年働きましたが、事故で障害を負いました。14 年 1 月からウクライナ代表チームの障害者アスリートインストラクターとして活躍しています。

筋骨格系障害を持つアスリートのパラカヌーでウクライナの国際スポーツマスター、ウクライナ・チャンピオン。世界選手権の銅メダル、欧州選手権の銀メダル、ワールドカップの銀メダリスト。16年ブラジルパラリンピックで銀メダル。20年東京パラリンピック出場。

セルゲイさんは1988年生まれ。2014年から16年にかけてウクライナ軍に所属し、戦闘中に頭部を狙撃された結果、障害を負いました。

■フューチャー・フォー・ウクライナ (FFU)

ウクライナ人によるウクライナ人のための慈善財団。ボランティア、専門家、NGO、企業の力を結集し、ウクライナの戦争被害者を支援しています。私たちの使命は、戦争によって平和な生活を破壊された人々を支援することです。ウクライナの人々が欧州の独立国家としてのウクライナの未来を開拓することを支援します。50人以上のボランティアが財団の活動に携わっています。

・子どもたちの支援

ウクライナの戦争で被害を受けた子どもたち、すなわち親から養育権を奪われた子どもたち、国内避難民の子どもたち、海外避難民の子どもたち、自閉症スペクトラムの子どもたちを持つ家族も支援しています。

・人道支援

ハルキウやヘルソン、ドネツク、ミコライウなど占領から解放された地域や前線地域での人道的ミッションを実施しています。

・医療支援

国際的なパートナーやウクライナのパートナーから提供された医薬品、医療機器、設備などを配布しています。戦争で手足を切断されたウクライナ人のための義肢装具とリハビリを支援しています。

・女性支援

戦争中に性的暴力の犠牲となった女性たちに専門的な心理療法による支援を提供しています。